

今がんばっています

畑野中学校

畑野中学校では、生徒の主體的な活動を通して、笑顔と勢いのある学校づくりに取り組んでいます。

1 自主学習と全校学習会

昨年度途中から「やらされる学習」から「進んでやる学習」への転換を図り、特に家庭学習では課題を与えることから自主学習に重点を移し、復習に焦点を当てた家庭学習ができるように取り組んでいます。



また、定期テスト前の全校縦割り学習会では、生徒が作成した問題を使い、生徒が自ら進んで学習に取り組んでいます。

2 生徒会による人間関係作り

優しい行動や感謝のメッセージを葉っぱの形をした紙に書き、枝に貼っていく取り組み「感謝のオマージュ」を生徒会本部が開始し、み



るみるうちに木の枝に葉っぱが繁っていく様子は、目を見張るものがありました。

3 生徒による球技大会の運営

球技大会は、身体を動かすことはもちろん、スポーツを通して親睦を図りたいと生徒会を中心とした強い要望があり、年2回実施しています。



ルール作りから当日の運営まで、生徒が主体となって実施することで、熱戦が繰り広げられる楽しい生徒会行事となっています。

これからも生徒の主體的な活動が、よりよい学校生活につながっていくように取り組んでいきます。

☎ 教育委員会学校教育課
58-7351

世界遺産登録に向けて

佐渡を世界遺産に

鉱山町あいかわ・下町散策③ 相川のみどころ

今回は、4月20日にオープンした佐渡金銀山ガイダンス施設「きらりうむ佐渡」周辺の下町を紹介し

ます。きらりうむ佐渡を出発し、まず目に付くのが重要文化財の松榮家住宅です。松榮家は相川を代表する豪商で、その住まいであったこの建物は明治44(1911)年に建てられたもので、近代における佐渡の町家建築の頂点を示すものです。

少し町中を歩くと、永禄3(1560)年の創建と伝わる金刀比羅神社があり、社殿内にて鉱山の石臼を使った敷石や寄進された船絵馬を見ることが出来ます。近くには寛永13(1636)年の開基と伝わる弾誓寺などの寺院もあります。

また、近隣には、明治生まれの民謡歌手、村田文三の生家跡も残されています。村田文三は、佐渡鉱山で働いていましたが、大正13(1924)年に創立された立浪会に入会すると、佐渡おけさや相川音頭などの民謡を唄い続け、全国に佐渡おけさを広めました。生家跡の建物には立ち入れませんが、静かな佇



まち歩きツアー(相川下町コース)の様子

☎ 世界遺産推進課
63-5136